

環境経営レポート2023

株式会社 **KDP**

KDP

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日
発行日：2024年6月3日

共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ



HUMAN DEVELOPMENT ENVIRONMENTAL PROTECTION



はじめに

共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ

世界一愛される会社になる！

- 1991年、鶴見区の一角で、私たちは、小さな一步を踏み出しました。創業時、僅か2名で始まり、やがて大きな夢を追いかけてミズノスポーツの物流センターを請負し、そしてナイキジャパンを含む数々の物流センターの一翼を担うまでに至りました。
- 小さな笹舟に乗り、時には荒波に揉まれながらも、私たちは希望の光を心に抱き続けました。暗雲が立ち込める時もありましたが、社員一人ひとりとその家族を想うことで、あきらめることなく今日まで航海を続けることができました。
- これから迎える33期目の新たな航海においても、私たちは創業の心を大切にしながら、温かい絆で結ばれた社員一同、力を合わせて未来への大きな一步を踏み出してまいります。「共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ」—この言葉を胸に、これからも一層の努力を続けてまいります。
- 私たちの旅はまだ始まったばかり。社員、パートナー、そしてお客様と手を取り合い、更なる高みを目指して参ります。株式会社KDPと共に、希望に満ちた明日を創り上げていきましょう。





代表取締役社長 金谷浩樹

ごあいさつ

私たちは、総合人材サービス業として、社会的責任を果たすことが企業の使命であると考えています。そのため、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）に沿った事業活動を推進しています。具体的には、以下のような取り組みを行っています。



- **人材育成**従業員の能力開発やキャリア支援を通じて、ディーセント・ワークの実現に貢献します。また、多様な人材の採用や育成により、ジェンダー平等や社会的包摂を促進します。



- **環境保全**事業活動におけるエネルギー効率の向上やCO2排出量の削減を目指し、気候変動対策に取り組みます。また、リサイクルや廃棄物削減などの循環型社会の構築に貢献します。



- **地域貢献**地域の雇用創出や産業振興により、地域循環共生圏の形成に協力します。また、地域の社会課題に応えるために、ボランティア活動や寄付活動などの社会貢献活動を実施します。

私たちは、これらの取り組みを通じて、SDGsの達成に向けて積極的に行動し、持続可能な社会の実現に貢献していきます

経営理念

世界一愛される会社になる

株式会社KDPは、「理想の企業を創造する」ことを経営理念として掲げ、売上や利益の追求だけでなく、「世界一愛される企業」を目指します。これは、顧客、社員、社会から尊敬され、信頼される企業を意味します。

1. 組織づくり（共に歩む）
2. 環境づくり（共に創る）
3. 企業づくり（明日への夢、共に紡ぐ）

これら3つの柱を中心に、株式会社KDPは人材の育成、環境保全、企業の持続可能な成長を目指し、社会に価値を提供する企業としての役割を果たしていきます。



会社・事業紹介

- ・ **設立**：平成4年4月（1992年4月）
- ・ **代表取締役**：金谷 宏、金谷浩樹
- ・ **資本金**：3,300万円
- ・ **本社住所**：〒552-0021 大阪市港区築港2-1-2 第一大阪港ビル4F
- ・ **事業内容**

一般労働者派遣業（厚生労働大臣許可番号 派27-300049）

有料職業紹介業（厚生労働大臣許可番号 27-ユ-300398）

- ・ **主な取引企業**

- ・ 伊藤忠食品株式会社、プラスロジスティクス(株)、
- ・ 株式会社紀文フレッシュシステム、航空集配サービス(株)
- ・ 株式会社上組、鴻池運輸株式会社、阪急阪神百貨店、
- ・ コーナン商事株式会社、丸協運輸株式会社
- ・ 株式会社HMKロジサービス、J R 西日本、
- ・ 近畿配送サービス株式会社、鴻池運輸株式会社、鴻池スカイサポート(株)、
- ・ 株式会社Kグランドサービス、ニッケン文具株式会社、
- ・ トポスエンタープライズ株式会社、（他、多数） ※順不同



環境経営方針



私たちは、本業である総合人材サービス業を通じて、また社会の一員として社会性の視座をもって、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に全社員とともに「自主的、積極的」に継続的改善に取り組めます。

またお客様に喜んでいただける商品を効率よく、無駄なく、タイムリーにお客様に提供することが当社の一番の環境対策と考えて、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギー等により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄口スをなくす等廃棄物の発生抑制につとめます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. グリーン製品の調達を優先します。
6. 環境に配慮した製品をお客様にお届けします。
7. 一人ひとりが成長できる強靱な組織づくりを目指す。
8. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日：2007年10月16日
改定日：2024年06月03日



環境への 取り組み活動

株式会社KDPがSDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」に注力する理由は、経営理念において重要な位置を占める環境保全への取り組みに密接に関連しています。

目標13は、気候変動の影響を軽減し、それに関連するハザードと自然災害への適応力を強化することを目的としています。KDPの経営理念と戦略は、社会的責任と持続可能な開発を経営の基本原則として掲げており、この目標はKDPの基本方針と整合しています。



目標8

働きがいも経済成長も

1 Priority SDG ⑧

目標8「働きがいも経済成長も」に注力する理由は、その経営理念と直接関連しています。KDPの経営理念は、「共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ」という3つの柱に基づいています。これらの柱は、人材の育成、環境保全、企業の持続可能な成長を目指し、社会に価値を提供する企業としての役割を果たすことを目指しています。



目標11

住み続けられる
まちづくりを

2 Priority SDG ⑪

目標11「住み続けられるまちづくりを」に注力する理由は、経営理念における「共に創る（環境づくり）」という部分に深く根ざしています。KDPは、現代の企業が自らのビジネス活動が地球環境に及ぼす影響を深く理解し、対策を講じる責任があると認識しています。気候変動、資源の枯渇、生態系の破壊など、地球環境への負担を軽減することは、将来世代のための持続可能な未来を守る上で不可欠です。



目標13

気候変動に具体的な
対策を

3 Priority SDG ⑬

目標13「気候変動に具体的な対策を」に注力する理由は、その経営理念と戦略的な取り組みにおける環境保全への深いコミットメントから来ています。経営理念の中で、「共に創る（環境づくり）」というセクションは、現代の企業がビジネス活動が地球環境に与える影響を深く理解し、その影響を軽減するための対策を講じる責任を持つことを強調しています。特に、気候変動は、地球規模で最も緊急性の高い環境問題の一つであり、これに対する具体的なアクションは、持続可能な未来を守る上で不可欠です。

組 織 の 概 要

- (1) 名称及び代表者名

株式会社 K D P

代表取締役社長 金谷浩樹
- (2) 所在地

本 社 大阪府大阪市港区築港2-1-2第一大阪港ビル4F

南大阪営業所 大阪府泉佐野市下瓦屋4-2-22第三あさひビル3F

神戸営業所 兵庫県神戸市中央区港島8-2-110号棟2F

なし
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 代表取締役社長 金谷浩樹 TEL : 090-2282-8631

担当者 営業担当 坂本祐貴 TEL : 090-3863-7871
- (4) 事業内容

総合人材サービス及び環境配慮商品等の提案・販売
- (5) 事業の規模

売上高 1,078,252 千円

	本 社	南大阪営業所	神戸営業所	請負先各社	合計
従業員 名	26 名	5 名	4 名	41 名	76名
延べ床面積 m ²	343 m ²	97 m ²	25 m ²	18391 m ²	18,856m ²
- (6) 事業年度

4 月 1 日 ~ 3 月 31 日



- 1.社員第一主義の実践：

1. 全社員とその家族の幸せを追求し、安心して仕事に従事できる環境を提供しています。これには、職場のエコフレンドリーな取り組みや、メンタルヘルスサポートの充実などが含まれます。
- 2.持続可能な環境づくり：

1. エコフレンドリーなビジネスプラクティスを実施し、持続可能な地球環境の創造を目指しています。例えば、ペーパーレス化やエネルギー効率の高いオフィス機器の使用などが推進されています。
- 3.透明性と倫理の重視：

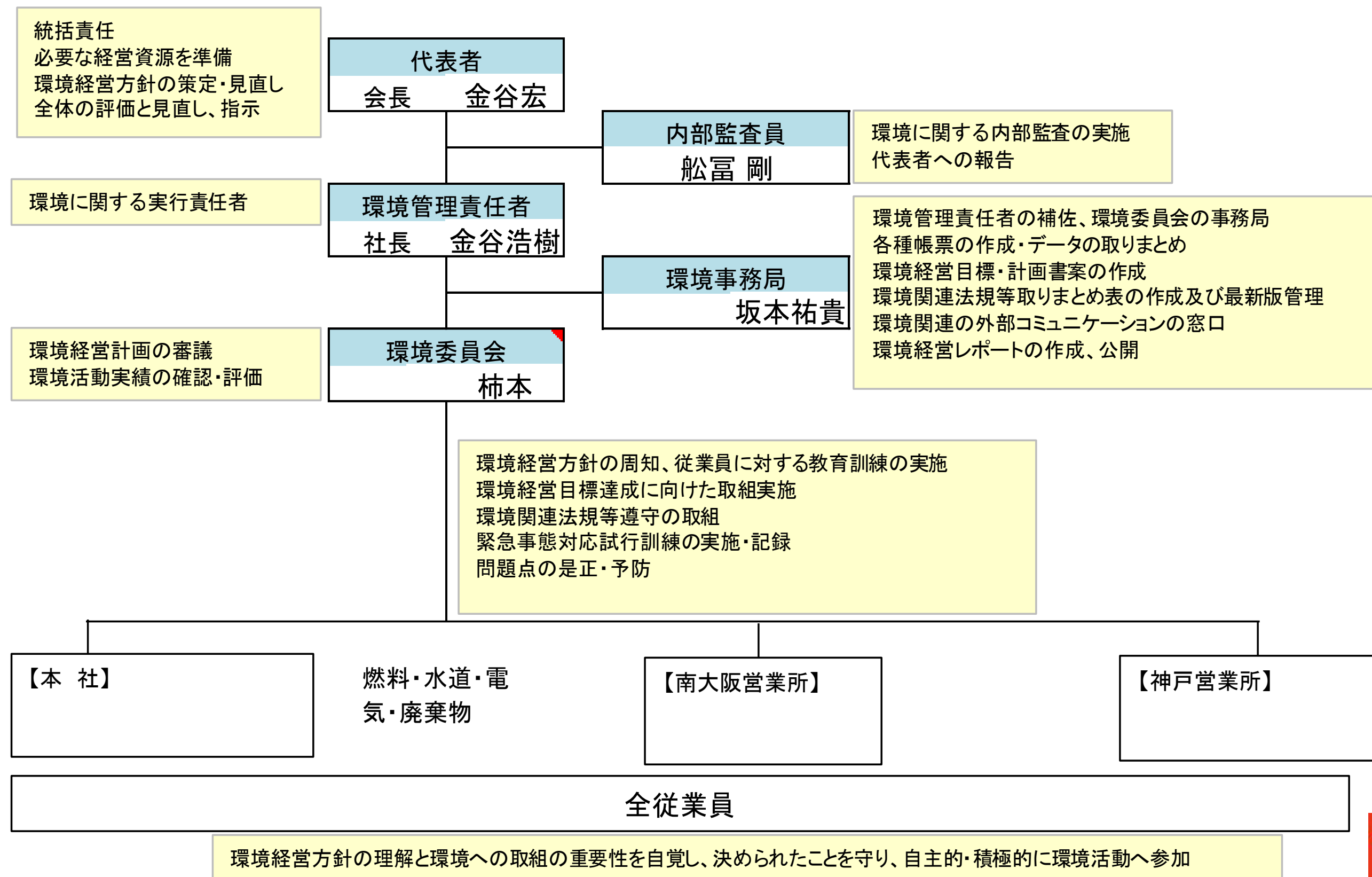
1. 経営の透明性を高め、公正で誠実な取引を行うことが重視されています。社員の評価や昇進プロセスにおける明確な基準を設けることで、公正な取り扱いを保証しています。
- 4.災害に強い未来の構築：

1. 耐震カプセル「Sphere Secure」の開発・普及を通じて、災害に強い社会の実現に貢献しています。大阪関西万博への出展を通じて、最先端技術を披露し、持続可能な未来への貢献を目指しています。

KDPの組織づくりは、社員の幸福、持続可能な環境、透明で倫理的な経営、そして社会貢献を中心に構築されています。これにより、KDPは「世界一愛される会社」を目指し、継続的な成長と社会的責任を果たす企業となることを目指しています。

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2022年6月1日



主な環境負荷の実績

項 目	単位	2013年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	53,258	25,061	24,613	15,979
化石燃料 (Scope1)		42,463	13,378	14,079	12,822
電力 (Scope2)		10,795	11,683	10,534	3,157
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	k g	335.24	845	1,511	153
産業廃棄物排出量	k g	0	0	0	682
水使用量	m ³	-	24,562	32,019	21,098
※電力の二酸化炭素排出係数 (調整後)		0.385		本社・南大阪:0318 本社1月より0	0.101
※2021年度のデータは期初から期の途中まで		関西電力	関西電力	関西電力 本社:1月よりコスモ でんきに変更	本社:コスモでんき 南大阪:関西電力 (加重平均の為)



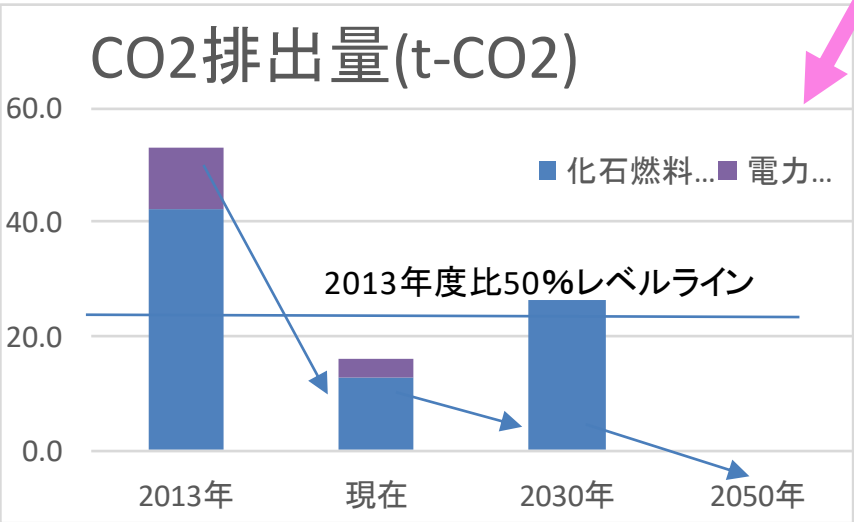
70.1%削減！



カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位：t-CO₂

	化石燃料 Scope1	電力 Scope2	対 策
2013年	42.5	10.8	
現在	12.8	3.2	省エネ+EV+再エネ電力
2030年	26.6	0	省エネ+EV+再エネ電力
2050年	0	0	省エネ+EV+再エネ電力



目標7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに「すべての人に安価で信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」ことを目的としています。この目標は、クリーンエネルギーの利用を促進し、エネルギー効率を向上させることで、エネルギーの持続可能な利用を目指しています。

目標13：気候変動に具体的な対策を「気候変動及びその影響に立ち向かうための緊急対策を講じる」ことを目的としています。この目標は、温室効果ガスの排出削減、気候変動に対する適応、気候変動対策の強化を図ることを目指しています。



環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		2013年	2023年		評 価	2024年	2025年	
			上段:通期					
		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)	
電力による二酸化炭素削減	kWh	32,321	31,675	31,379	○	31,028	30,705	
	基準年度比		98%	97%		96%	95%	
売上高原単位	kWh/千円	0.026	0.025	0.029	✖	0.025	0.024	
売上高原単位	kg-CO2	10,795	10,579	3,157	○	10,363	10,255	
	基準年度比		98%	29%		96%	95%	
	kg-CO2/千円	0.009	0.008	0.003	○	0.008	0.008	
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	42,463	41,614	12,822	○	41,189	40,765	
	基準年度比		98%	30%		97%	96%	
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	53,258	52,193	15,979	○	51,553	51,020
一般廃棄物の削減	kg	335	318	153	○	312	302	
	基準年度比		95%	46%		93%	90%	
循環廃棄物の削減	kg	1,081	973	682	○	865	757	
	基準年度比		90%	63%		0.8	0.7	
水道水の削減	m³	29,075	27,621	21,098	○	26,749	26,167	
	基準年度比	2020年(基準年)	95%	73%		92%	90%	
環境に配慮した製品をお客様にお届けします。		行動目標(次項による)						
一人ひとりが成長できる強靱な組織づくりを目指		行動目標(次項による)						

成果

1. 電力による二酸化炭素排出削減
 - 2023年度の実績は、基準年度比で電力使用量が97%（3%削減）にとどまりました。二酸化炭素排出量は、29%（71%削減）削減されました。これは、本社の電力を再生可能エネルギーに切り替えたためです。
2. 自動車燃料による二酸化炭素削減
 - 自動車燃料による二酸化炭素排出削減が30%（削減率70%）を達成しました。EV車両「さくら」導入
3. 一般廃棄物の削減
 - 基準年度の335kgに対し、2023年度の実績は153kgとなり、54%削減しました。これは、「買わない！捨てない！持ち込まない！」というスローガンのもと、全員で廃棄物の発生を抑えた結果です。
4. 循環廃棄物の削減
 - マイ弁当、マイ箸、マイボトルを徹底し、さらにコピー用紙はPELP（山陽製紙）に持ち込んでアップサイクルしています。
5. 水道水の削減
 - 基準年度（2020年度）に対し、2023年度の実績は27%の節水となりました。

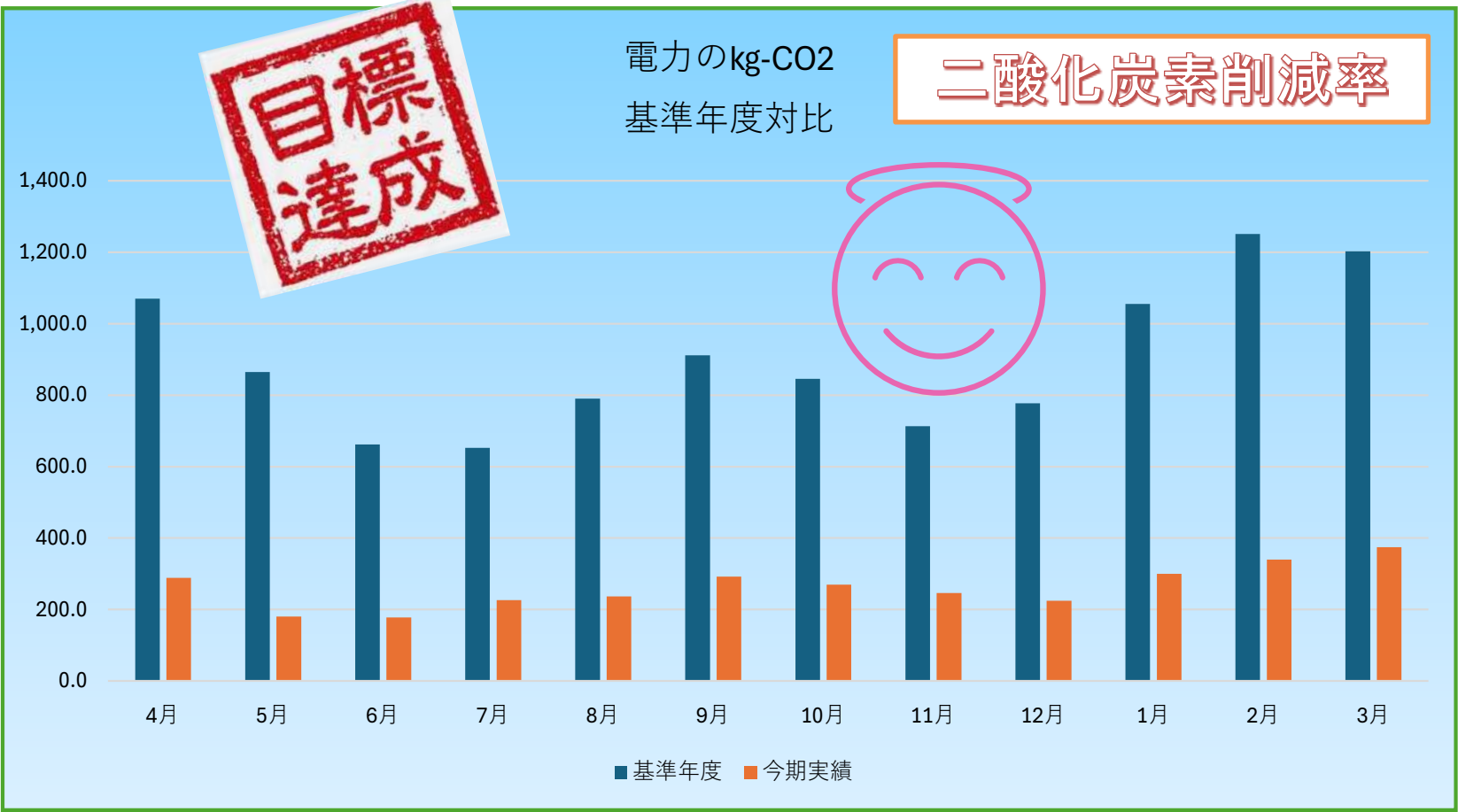
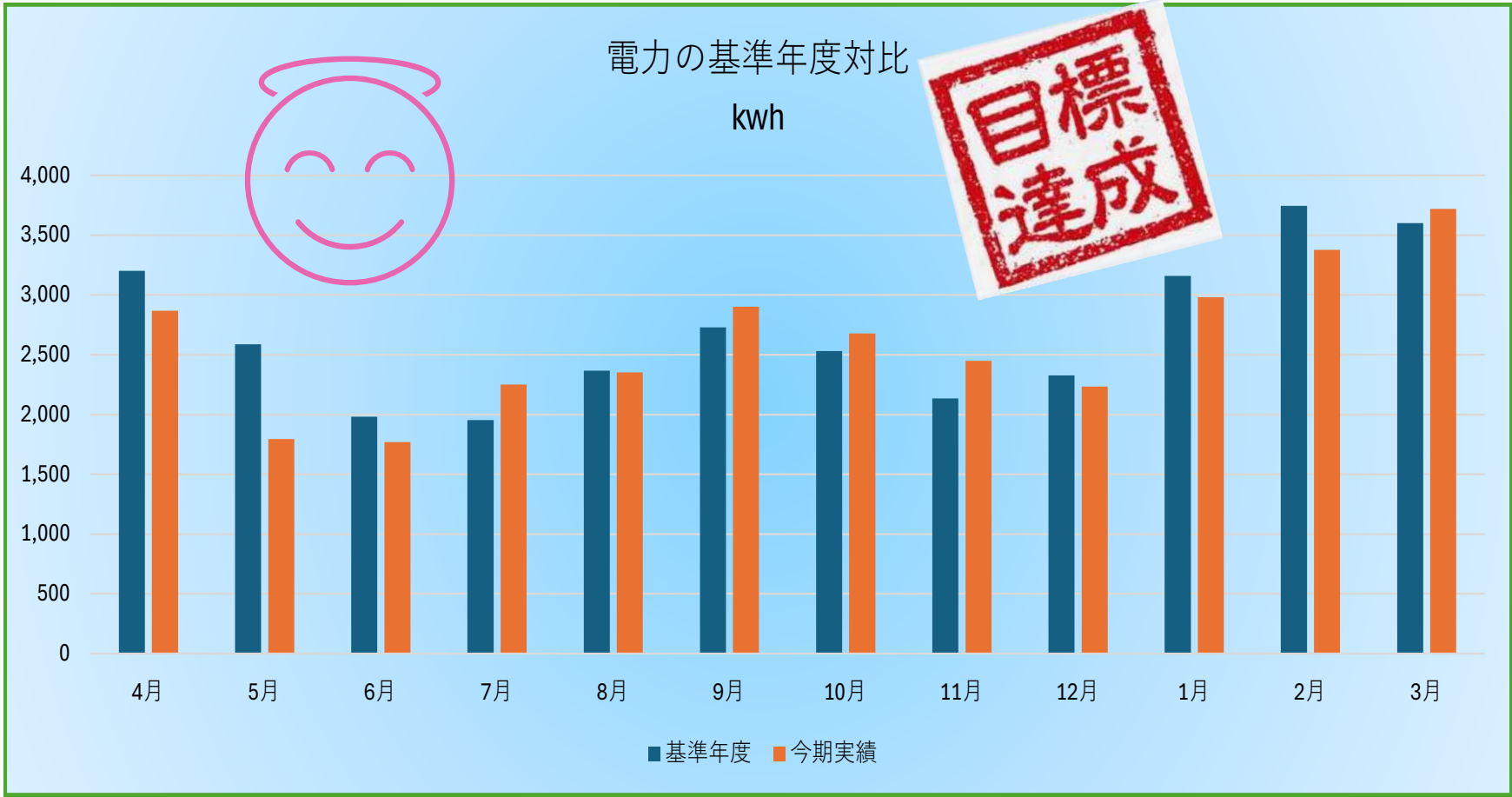
課題

1. 電力による二酸化炭素排出削減
 - 売上高原単位における目標未達成（目標：0.025 kWh/千円、実績：0.029 kWh/千円）2013年度は13億円で、今期よりも2億円多かった。原因は、暖簾分けをしたためであり現在は売り上げも回復中

環境経営目標及びその実績

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基準年 kWh	3,203	2,589	1,981	1,953	2,366	2,728	2,532	2,135	2,327	3,160	3,746	3,601
目 標 kWh	3,139	2,537	1,941	1,914	2,319	2,673	2,481	2,092	2,280	3,097	3,671	3,529
今期 kWh	2,867	1,796	1,770	2,250	2,353	2,903	2,678	2,448	2,235	2,982	3,377	3,720

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基準年 kg-CO2	1,069.80	864.73	661.65	652.30	790.24	911.15	845.69	713.09	777.22	1,055.44	1,251.16	1,202.73
目 標 kg-CO2	1,048.41	847.43	648.42	639.26	774.44	892.93	828.77	698.83	761.67	1,034.33	1,226.14	1,178.68
今期 kg-CO2	288.48	180.72	178.10	226.40	236.76	292.11	269.47	246.32	224.89	300.06	339.80	374.31



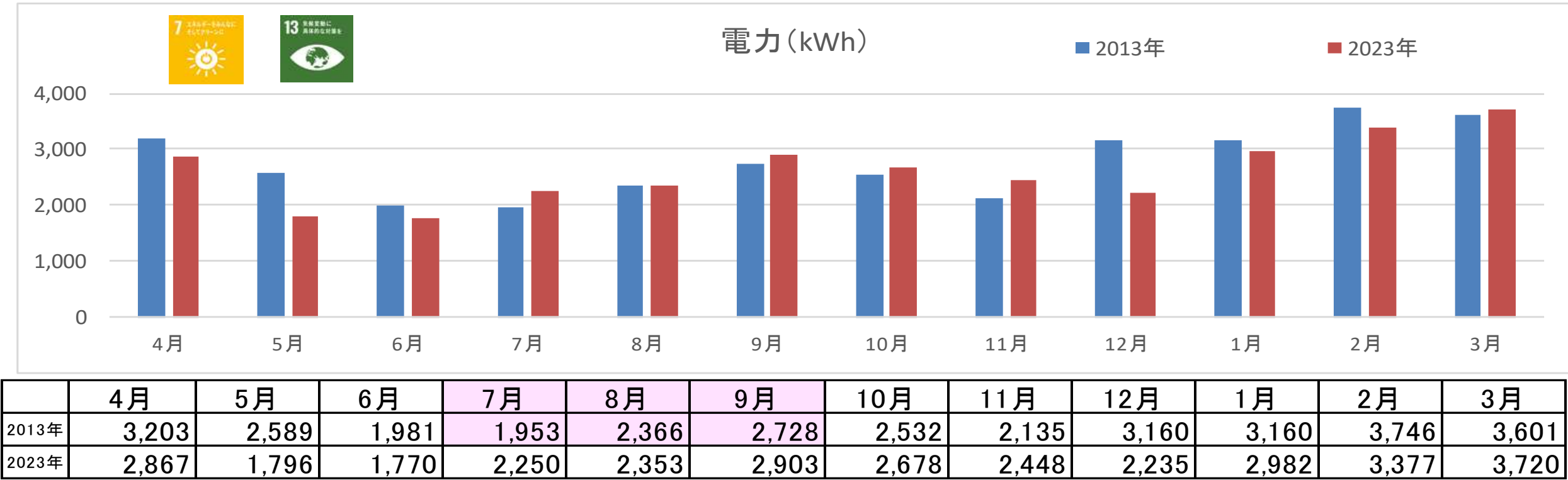
Kwh: 目標に対して0.91%削減！

二酸化炭素削減目標に対して
68.75%削減！

1 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成
活動: ○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	成果
原単位目標	○	電力による二酸化炭素排出削減
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	2023年度の実績は、基準年度比で電力使用量が97%(3%削減)にとどまりました。二酸化炭素排出量は、29%(71%削減)削減されました。これは、本社の電力を再生可能エネルギーに切り替えたためです。
・不要照明の消灯	○	
・働き方見直しによる残業時間の短縮	○	
・生産方法の改善による時間短縮	○	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	○	

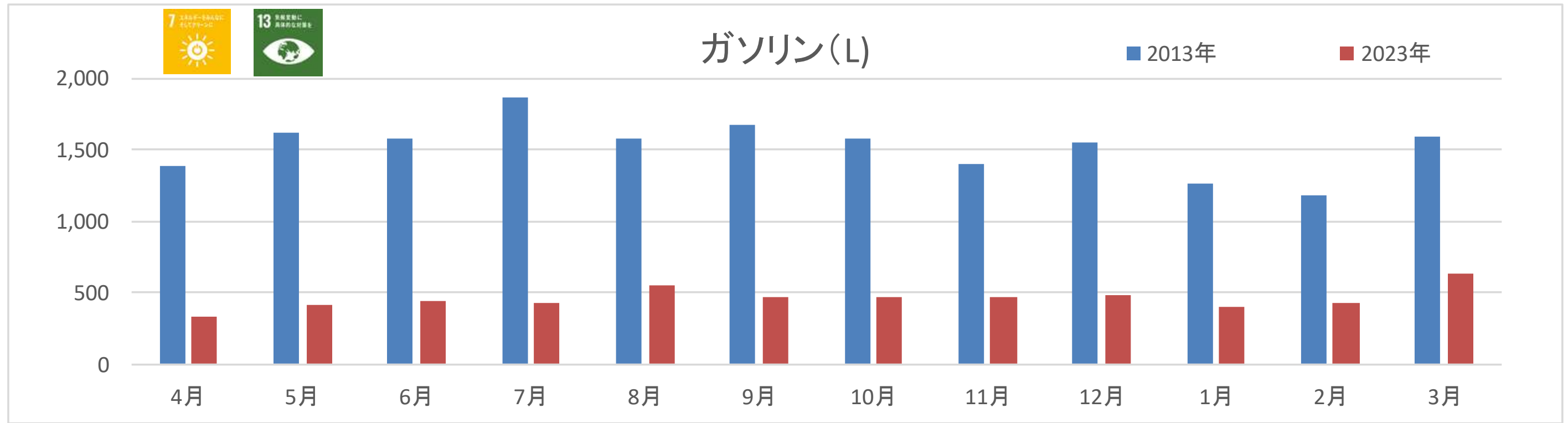


目標7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに「すべての人に安価で信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」ことを目的としています。この目標は、クリーンエネルギーの利用を促進し、エネルギー効率を向上させることで、エネルギーの持続可能な利用を目指しています。

目標13：気候変動に具体的な対策を「気候変動及びその影響に立ち向かうための緊急対策を講じる」ことを目的としています。この目標は、温室効果ガスの排出削減、気候変動に対する適応、気候変動対策の強化を図ることを目指しています。

①-2 自動車燃料による二酸化炭素削減

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	自動車燃料による二酸化炭素削減
・エコドライブの浸透	○	自動車燃料による二酸化炭素排出削減が30%（削減率70%）を達成しました。EV 車両「さくら」導入した。次年度はエリア別営業活動の見直しを行い成果を出す。
・効率的なルートで配送	○	
・エリア別営業活動の見直し	△	



69.77%削減

2013年度対比	
・削減量	29,641kg-Co2
・削減率	69.77%



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年	1,387	1,626	1,579	1,866	1,586	1,674	1,580	1,407	1,560	1,265	1,186	1,588
2023年	328	417	441	427	550	469	477	471	487	401	426	632

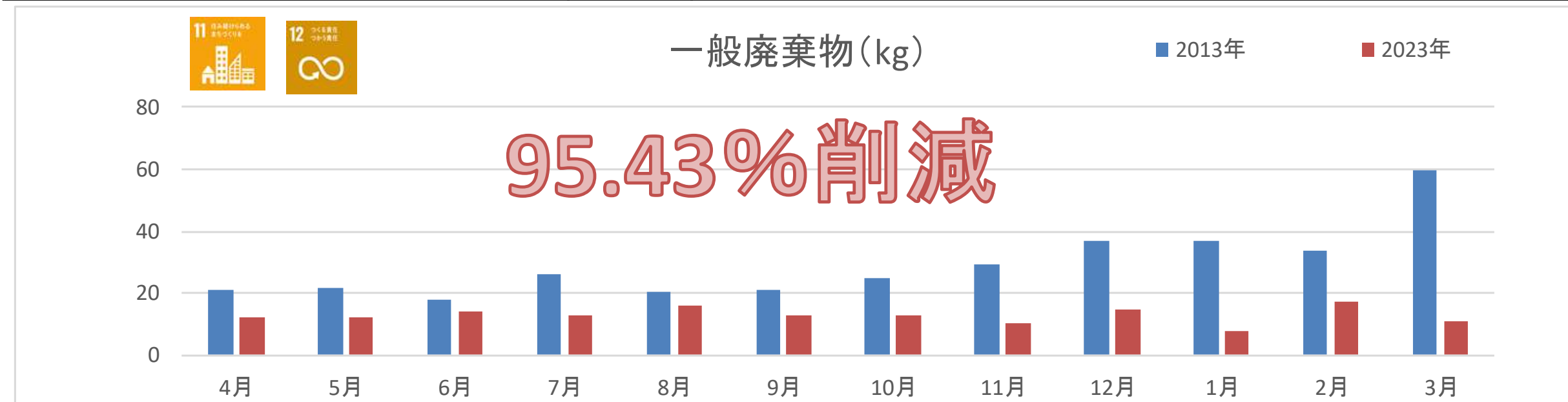


目標7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに 「すべての人に安価で信頼できる持続可能な近代エネルギーへのアクセスを確保する」ことを目的としています。この目標は、クリーンエネルギーの利用を促進し、エネルギー効率を向上させることで、エネルギーの持続可能な利用を目指しています。

目標13：気候変動に具体的な対策を 「気候変動及びその影響に立ち向かうための緊急対策を講じる」ことを目的としています。この目標は、温室効果ガスの排出削減、気候変動に対する適応、気候変動対策の強化を図ることを目指しています。

② 一般廃棄物の削減

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	「買わない！捨てない！持ち込まない！」をスローガンに、徹底してゴミの削減を行っています。社員は、毎弁当、マイ箸、マイボトルを持参し、コンビニ弁当を極力購入しないようにしています。次年度の取り組みとして、廃棄物のリサイクル推進－オフィス内のリサイクルステーションを増設し、分別回収の徹底を図る。－リサイクル可能な製品の使用を奨励し、リサイクル率の向上を目指す。
・分別の徹底	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	
・持込ごみの見直し	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年	21	21	18	26	20	21	25	29	37	37	34	60
2023年	12	12	14	13	16	13	13	10	15	8	17	11



2013年度対比

・削減量	319.94kg
・削減率	95.43%



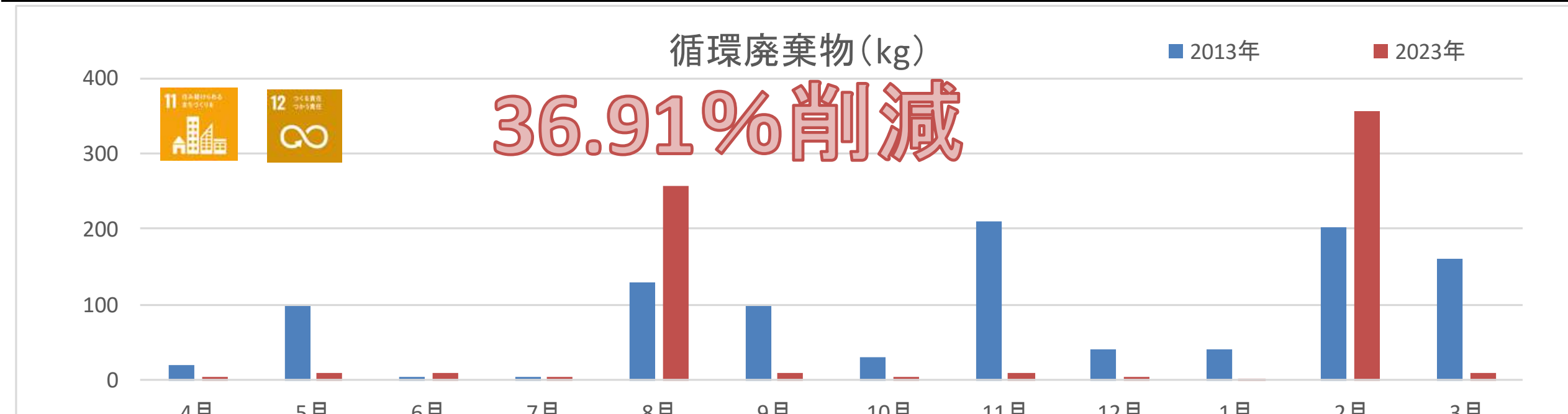
目標11：持続可能な都市とコミュニティ 「持続可能な都市とコミュニティを実現する」ことを目的としています。この目標は、安全で強靱な都市と人間の住居を確保し、環境負荷を軽減するために設計されています。具体的には、廃棄物管理、住居の質の向上、公共交通機関の利用促進などを含みます。

目標12：つくる責任、つかう責任 「持続可能な消費と生産パターンを確保する」ことを目的としています。これには、資源の効率的な利用、廃棄物の発生を最小限に抑えること、持続可能な生活スタイルの普及が含まれます。この目標は、自然資源の持続可能な管理と使用、および廃棄物の削減を推進します。

②-2 循環廃棄物の削減

17

循環廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	循環廃棄物の削減 マイ弁当、マイ箸、マイボトルを徹底し、さらにコピー用紙はPELP(山陽製紙)に持ち込んでアップサイクルしています。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・素材別ボックスの設置	○	
・リサイクル業者の活用	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年	20	98	5	4	130	99	30	210	42	42	202	161
2023年	4	8	10	4	258	10	5	10	5	1	356	11



2020年度対比

・削減量	399kg
・削減率	36.91%



12 つくる責任
つかう責任



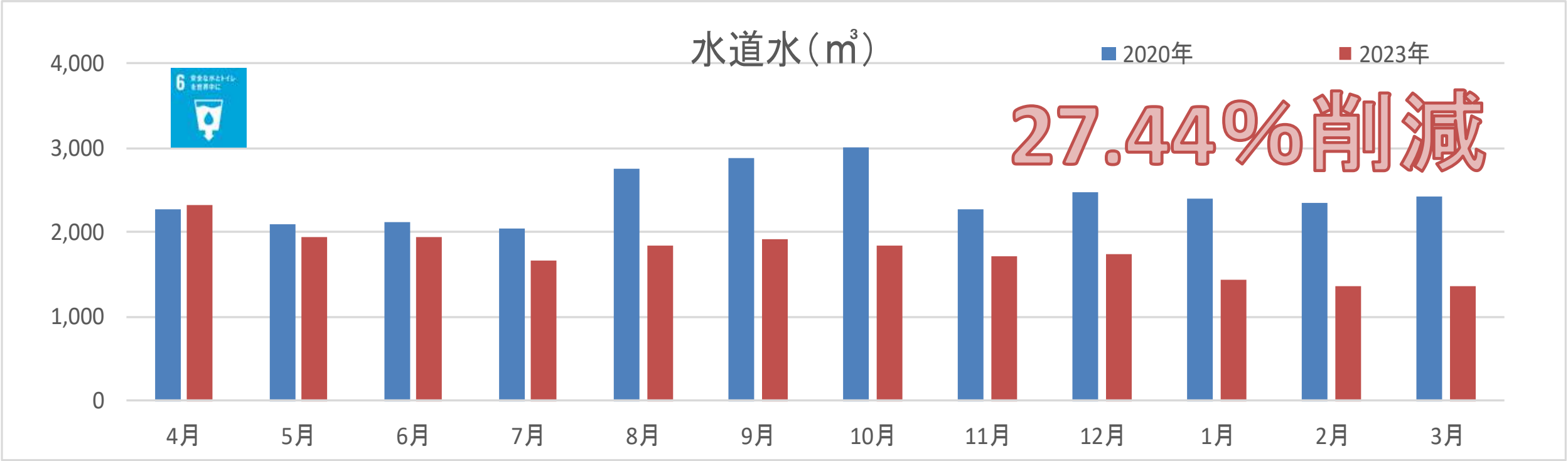
目標12：つくる責任、つかう責任

目標12の意味

目標12は「持続可能な消費と生産パターンを確保する」ことを目的としています。この目標は、資源の効率的な使用、廃棄物の発生を最小限に抑えること、持続可能な生活スタイルの普及を目指しています。

③ 水道水の削減

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	基準年度(2020年度)に対し、2023年度の実績は27%の節水となりました。節水シールの貼り付けとポスター掲示、各オフィスや施設内の蛇口に節水シールを貼り付け、水の使用量削減を促進。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・自動水栓取り付け	○	



2020年度対比	
・削減量	7,977m³
・削減率	27.44%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	2,259	2,091	2,112	2,044	2,762	2,877	3,010	2,261	2,485	2,403	2,354	2,416
2023年	2,320	1,936	1,950	1,674	1,838	1,912	1,842	1,718	1,736	1,444	1,368	1,360



目標6：安全な水とトイレを世界中に

目標6は「すべての人に水と衛生へのアクセスを確保し、持続可能な水管理を行うこと」を目的としています。具体的には、安全で利用可能な飲料水を全ての人に提供し、適切な衛生施設と衛生教育を普及させることです。この目標に向けて、以下の取り組みが行われています。



④ グリーン製品の調達を優先します

グリーン購入額	35,568	29,777	48,440	6,660	28,461	12,430	7,785	29,062	4,003	17,525	18,500	19,000	257,211
今年度全体額	65,544	67,773	59,046	9,134	43,762	16,273	38,523	46,723	18,819	26,596	25,000	23,000	440,193
今年度購比率	54.27%	43.94%	82.04%	72.91%	65.04%	76.38%	20.21%	62.20%	21.27%	65.89%	74%	83%	58%
達成状況	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	109%

購入比率目標59%に対して、実績は58%となり未達成でした。

グリーン購入の課題

-目標に対しても、前年度と比較してもグリーン購入比率を達成することができませんでした。次年度は、購入時にグリーンマークの商品を優先的に選定し、意識的に確認することを徹底します。

対策案

1.教育と意識向上

-グリーン購入に関する研修やセミナーを定期的を開催し、社員の意識向上を図ります。環境に優しい商品の選定方法やその重要性について学ぶ機会を提供します。

2.購買プロセスの見直し

-購買プロセスを見直し、グリーンマーク商品の優先選定を系統的に組み込むことを検討します。例えば、購入システムにグリーンマーク商品のフィルター機能を追加するなどの対策が考えられます。

これらの対策を講じることで、グリーン購入比率の向上と環境保護への貢献を実現することができます。



目標12：つくる責任、つかう責任

目標の意味：目標12：つくる責任、つかう責任「持続可能な消費と生産パターンを確保する」ことを目的としています。この目標は、資源の効率的な利用、廃棄物の発生を最小限に抑えること、持続可能なライフスタイルの普及を目指しています。具体的には以下のような点が重要です。

⑤ 環境に配慮した製品をお客様にお届けします

環境に配慮した製品をお客様にお届けしま	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・省電力製品の販売・工事施工	○	LED工事(10月桜丘中高121万円、2月浦島電気44万円、3月石井商事32万円)
・老朽化したインフラの改良工事施工	×	
・環境負荷の低い塗装工事施工	○	塗装工事(12月松田組170万円)
・落雷のない環境達成機器の販売・施工	△	避雷器(10月300万円受注→工事中止)



成果

前期受注顧客: カミックス・KALC・LED交換工事893万円、大阪経済大学・LED交換工事886万円

期初目標顧客受注: 桜丘中高・LED交換工事等121万円、松田組・六甲電子2期工事170万円、石井商事・誘導灯工事32万円

期中案件受注: 浦島電気・LED製品44万円、兼松サステック・換気扇工事等37万円、三神製作所・通信機器更新11万円、他

課題(未達要因)

期初目標顧客失注等

奈良大学付属高校・体育館LED工事368万円(学園法人から業者指定)

大阪市港湾局・鋼材補強ポリウレタ設置提案(2,370万円)(ライノとの連携不良)

東洋埠頭LED製品の設置提案・6号倉庫370万円、51号倉庫235万円(価格差)

カミックスと組んだ上組LED更新工事は下期受注なしに終わる。今年度上組全社のLED更新は受注した神戸空港島と東京物流の2か所のみ。背景は確認したが、全社で9割の現場がLED未対応の状態。2030年完了目標。

期中案件失注等

桜丘中高・女子寮エアコン更新工事230万円(価格差)

住吉冷蔵・断熱工事710万円(価格差)

上組KDIC・エアシェルター更新工事10基2400万円に関しては、予算化できず。

受注案件保留: ツリーフル・カンボジア避雷針工事約300万円(カンボジア国内事情で中断)



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



12 つくる責任
つかう責任

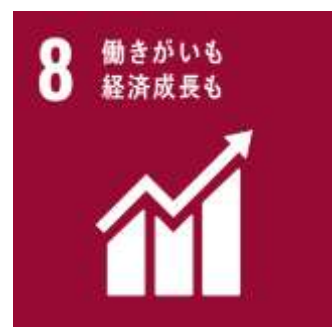


目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう「持続可能な産業化を促進し、イノベーションの基盤を構築する」ことを目的としています。この目標は、インフラの整備、産業の多様化と付加価値の向上、技術革新の推進を通じて、持続可能な経済成長を実現することを目指しています。

目標12：つくる責任、つかう責任「持続可能な消費と生産パターンを確保する」ことを目的としています。これには、資源の効率的な利用、廃棄物の発生を最小限に抑えること、持続可能な生活スタイルの普及が含まれます。この目標は、自然資源の持続可能な管理と使用、および廃棄物の削減を推進します。

⑥ 一人ひとりが成長できる強靱な組織づくりを目指す

一人ひとりが成長できる強靱な組織づくりを目指す。	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・新卒・中途採用・スカウトや派遣スタッフから採用する	○	環境づくり（採用と組織強化） - 理由：労働市場の競争激化に対応し、稼ぐ力・組織の競争力を維持するため。
・企業価値向上による顧客獲得	○	- 課題：退職者による人材補充の遅れと若年層の育成が必要。 - 成果：7名の新規採用に成功。純増4人。
・事業拡大のための資金調達、人材確保	○	組織づくり（教育システムの強化） - 理由：社員のスキル向上が組織の効率と生産性を高める。 - 課題：OJTシステム未実施部門あり。
・新製品・商品開発	○	- 成果：OJTシートで教育プログラムを強化し、部門により進歩。
・働き方改革	○	企業づくり（100年企業への道） - 理由：持続可能な成長と長期ビジネス戦略の必要性。 - 課題：労働人口減少と競争による高品質サービスの提供。 - 成果：独自サービスで市場競争力を維持し、質の高い人材確保に注力。



目標8：働きがいも経済成長も 目標8は、「持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある仕事をすべての人々に提供する」ことを目的としています。この目標は、経済成長の促進、労働環境の改善、雇用創出と働きがいのある仕事の提供を目指しています。



目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう 目標9は、「持続可能な産業化を促進し、イノベーションの基盤を構築する」ことを目的としています。この目標は、インフラの整備、産業の多様化と付加価値の向上、技術革新の推進を通じて、持続可能な経済成長を実現することを目指しています。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出
家電リサイクル法	冷蔵庫
フロン排出抑制法	業務用空調機
顧客要求事項	環境管理・品質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。



12 つくる責任
つかう責任



法的義務を受ける主な環境関連法規制の遵守

廃棄物処理法、家電リサイクル法、フロン排出抑制法、顧客要求事項等、環境関連法規制の遵守状況进行评估し、適切な措置を講じています。

これにより、企業活動が環境に与える影響を最小限に抑え、持続可能な生産と消費パターンを確保します。

関連SDG: 目標12（持続可能な消費と生産）**環境関連法規制等の遵守状況の評価：**環境関連法規制等の遵守状況を定期的に評価し、法的義務を確実に守ることで、企業の環境パフォーマンスを向上させます。これにより、環境への配慮と持続可能な経営を実現します。

関連SDG: 目標12（持続可能な消費と生産）、目標13（気候変動対策）**違反や訴訟の有無：**過去3年間にわたり、環境関連法規制に違反することなく、訴訟も発生していないことから、企業のコンプライアンスと責任ある経営が示されています。これにより、持続可能な社会の実現に寄与します。

13 気候変動に
具体的な対策を



緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 5/17（水）15：00～15:30	■実施場所：第一大阪港ビル 1階
■参加者： 金谷社長、船富部長、東口所長、北川主任、太田社員、坂本社員、フン社員、大村社員	
■実施内容： ☒通報訓練 ☒消火訓練 ☒避難訓練 第一大阪港ビルの中にある複数の会社と合同で実施。 避難にかかった時間の計測や、通報の連絡手順などを消防隊の方から教わり、訓練用の消火器を使用し消火訓練を行った。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☒ あり ☐ なし
今回の消防訓練を行い、避難にかかった時間は4分未満。 事前に訓練があるとわかっていたにしては遅い時間であり、 実際だと訓練の避難時間よりもかかるという事を消防隊の方により認識させられた。 また通報訓練もまずは「119番とはどこに電話がつながるのか」という基礎的なことから、消防隊の実際の火災現場のお話まで聞くことができ、 参加社員全員の火災に対する意識が向上し、実りのある良い訓練だったと実感した。	
■実施状況の様子     	



目標の意味

目標11：住み続けられるま

ちづくりを 目標11は、「すべての人々に包摂的、安全、強靱かつ持続可能な都市と人間居住を実現する」ことを目的としています。この目標は、都市とコミュニティの強靱性を高め、災害に強いインフラを構築し、持続可能な生活環境を提供することを目指しています。



緊急事態の想定： 火災の発生		
■実施日： 11/10（金）15:00～15:30	■実施場所：第一大阪港ビル 1階	
■参加者： 植本部長 平野係長 ホン社員 大村社員 高橋社員 フン社員		
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 第一大阪港ビルの中にある複数の会社と合同で実施。避難にかかった時間の計測や、通報の連絡手順などを消防隊の方から教わり、訓練用の消火器を使用し消火訓練を行った。		
■評価：	手順書の変更の必要性 ☒ あり ☐ なし	
避難の速さはスムーズで実際に火災が起こった際でも安全圏内の避難時間であった。また消防隊員からは消火や避難時の注意事項を教えていただいた。まず消火については消火器の噴射は15秒程度、火元を消す、炎が170センチ以上になれば消火をせずに逃げるなどを、避難に関しては一酸化炭素を吸わないように布やハンカチを口、鼻に押さえて姿勢を低くして避難するなど、基礎的なことだが、命を守る手段大切な行為を学んだ。		
■実施状況の様子		
		

11 住み続けられるまちづくりを



訓練

●火災の発生を想定した緊急事態対応訓練を実施し、社員が適切な対応を迅速に取れるようにする。これにより、災害時の被害を最小限に抑え、社員の安全を確保します。

安全教育の強化

●定期的に防災訓練や安全教育を実施し、社員の災害対応能力を向上させます。これにより、災害時のリスクを軽減し、職場の安全を確保します。

□外部からの環境上の苦情・要請等

※ビールの詰替作業で外装梱包時に、パッキンケースに破損が生じました。

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年6月2日

代表者による見直しと指示：

1.環境経営方針の見直し

2023年度の成果と課題を踏まえ、次年度の環境経営方針は「全社一体となって二酸化炭素排出量のさらなる削減と、循環型経済の推進」を軸に、以下の項目を強化します。再生可能エネルギーの利用、廃棄物削減、水資源の管理強化を継続し、全従業員の環境意識向上に重点を置きます。

2.環境経営目標の見直し

次年度の目標は、以下のように設定します。

○**二酸化炭素排出量削減**：全拠点での再生可能エネルギーの使用割合を70%を維持する。その後順次家主と交渉し引き上げる。電力使用効率を更に向上させ、売上高原単位における電力使用量を0.025 kWh/千円に達成することを目指す。（売上を107%目標とする）

○**一般廃棄物の削減**：2013年度比で54%削減しました。廃棄物管理の強化を通じて、2023年度比でさらに2%の削減を目指し、全社でのリサイクル率を80%以上に引き上げる。

○**水使用量の削減**：基準年度「2020年度」に対して、27%削減できました。更に、次年度は1%の節水を目標に、節水設備の導入とモニタリングシステムを全拠点で強化する。

3.環境経営計画の見直し

次年度の計画には、以下を含めます。

○再生可能エネルギー利用設備への更なる投資と、エネルギー効率向上に向けた技術導入を進める。

○全社員を対象としたエコ意識向上プログラムを実施し、社員が主体的に環境に貢献できる仕組みを強化する。

○循環型経済の実現に向けて、全社的なリサイクルキャンペーンを定期的の実施し、廃棄物削減と資源の有効利用を推進する。

4.実施体制の見直し

次年度の実施体制では、環境管理責任者を各部門に配置し、環境目標達成に向けた進捗状況の定期的なモニタリングと報告体制を強化します。



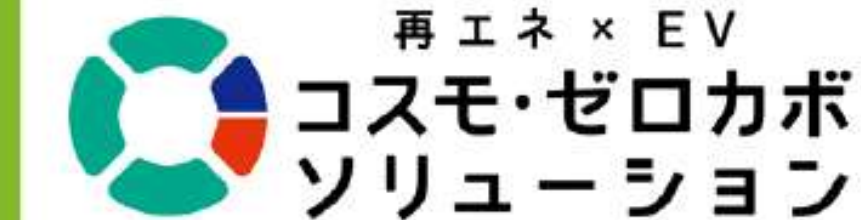
会長：金谷 宏

主な取り組み ～CO2削減～

- 当社は、環境への責任を果たすために、コスモ・ゼロカボソリューションへと方針を転換しました。この結果、2023年2月には、CO2排出量を完全にゼロにすることができました（コスモゼロカーボンの実現）。
- さらに、電気使用量の削減を目指し、2024年3月までに事務所の照明をLEDに全面的に更新し、その結果、電気使用量を3分の2に減らすことができました。
- また、南大阪営業所においても2022年6月にはLED照明への切り替えが完了しています。労働環境の改善のためにも努力し、昨年と比較して、KDP全体で残業時間を1509時間削減しました。
- さらに、社用車に電気自動車「さくら」を導入し、燃料消費を大幅にカットしています。今後は、電気自動車（EV）およびプラグインハイブリッド車（PHV）への完全移行を計画しています。



みんなで節電ACTION



CO₂排出ゼロを めざして

自家消費型
太陽光発電設備

EVカーリース
&
EVカーシェア



主な取り組み

～CO2削減～

みんなで燃費ACTION!

2023年2月に本社で社用車1台（ガソリン車）をEV車両に切り替え大幅にCO2を削減しました。

現在、弊社の車両はガソリン車4台とEV1台を有していますが、将来的には順次電気自動車への切り替えを予定しています。

A brown Nissan EV car is shown from a front-three-quarter view. The car has a KDP license plate. The background is a blurred city street.

KDP

みんなで燃費ACTION

2 廃棄物の削減

マイ箸・マイ弁当・マイボトル

主な取り組み ～プラごみ削減～

買わない・捨てない・持ち込まない

- ・弊社では入社した社員に水筒をプレゼントすることで、ペットボトルなど廃棄物を出さないよう社員1人1人が心がけている。
- ・また社員のほとんどがお弁当、マイ箸を持参することで不要な廃棄物を出さないよう心掛けている。



環境美化活動

- 会社周辺の清掃活動は、2008年の女子社員の一言から始まり、今年で16年目を迎えました。当初は小さな一歩でしたが、この継続した努力により、現在では周辺エリアからポイ捨てゴミがなくなるほど環境が改善されました。
- ただし、まだ課題は残っており、これを地域全体の運動へと発展させるためには、近隣企業との連携が必要です。



進捗状況 の測定

株式会社KDPは、2050年カーボンニュートラル実現に向け、2030年までに2013年比で温室効果ガスを46%削減し、さらに50%削減を目指す国の方針に沿った取り組みを進めています。

これには、エコフレンドリーなビジネスプラクティスの実施、リソースの効率的な利用、再生可能エネルギーの活用が含まれます。KDPは、カーボンニュートラルへの挑戦を産業構造と経済社会の変革、そして成長機会と捉えており、環境と社会への貢献を目指しています。

CO2排出量

2013年度実績

2024年度実績

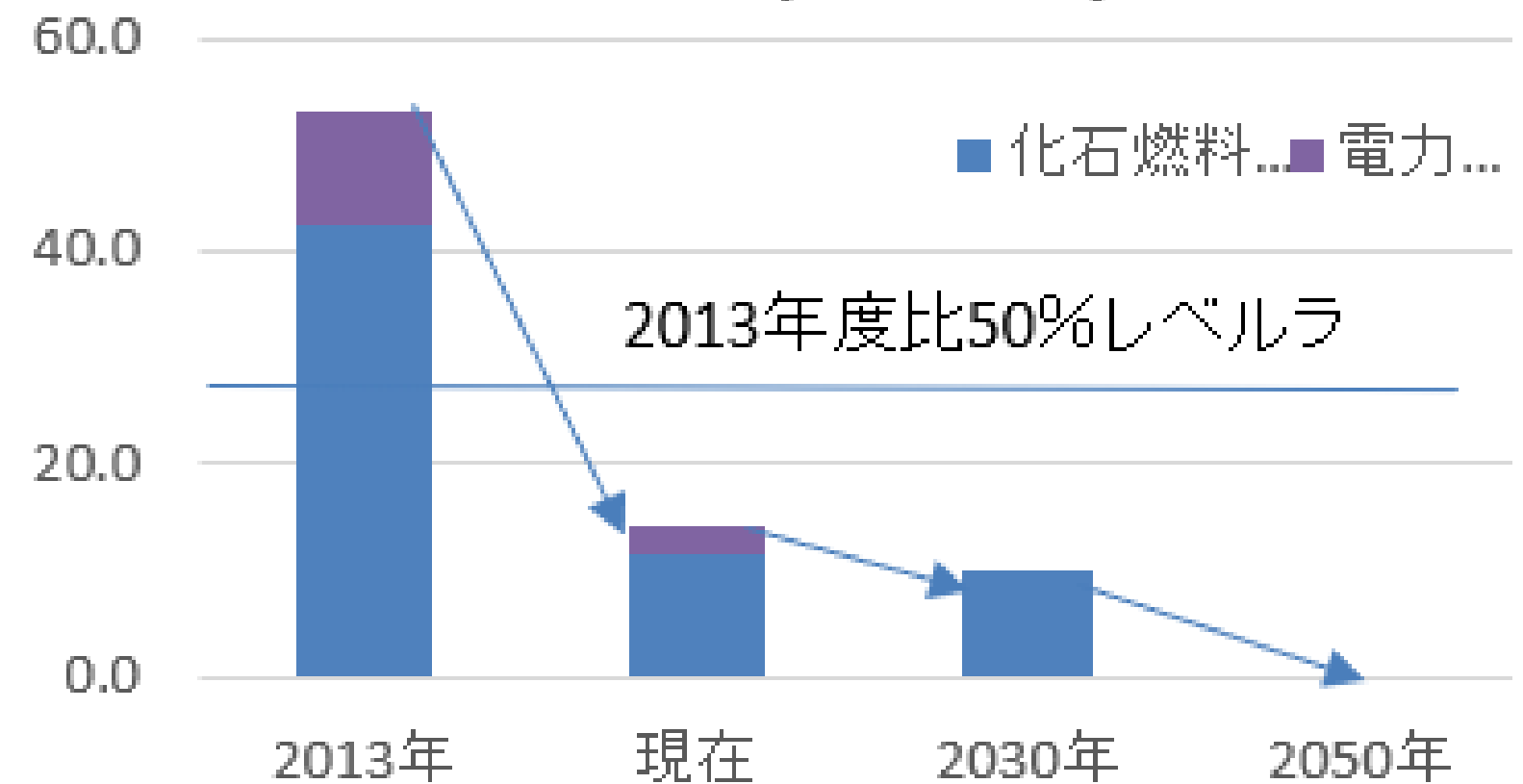
2030年度目標

53258g-CO2

14242kg-CO2

10000kg-CO2

CO2排出量(t-CO2)



プラごみ排出量

1081g-CO2

671kg-CO2

Next Steps

1. 気候変動対策: 多発する災害に対する耐性強化。
2. 耐震・シェルターの整備: 地震発生時の安全な避難場所の提供。
3. 耐震カプセルの開発: 個人が災害時に利用できる保護装置の開発。
4. 防災製品の開発と販売: 災害発生時に役立つ製品の市場への投入。



01

クリーンエネルギーの全面的採用

すべてのオペレーションにおいて、再生可能エネルギーへの移行を進めます。



02

カーボンフリートランスポート

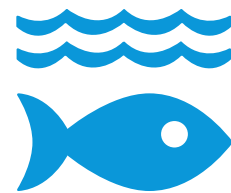
カーボンフリートランスポート：企業の車両をEVに置き換え、交通による環境への影響を最小限に抑えます。



03

ゼロウェイストへの取り組み

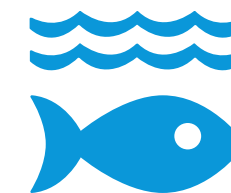
廃棄物の削減と循環利用を推進し、生産から廃棄までのサイクルにおける無駄をなくします。



04

海洋保護の強化：

プラスチック廃棄物を減らし、海洋汚染を防止します。



05

耐震技術の革新と普及

耐震カプセルやシェルターを開発し、広く配布することで、災害時の安全を確保します。



06

防災製品の研究開発

効果的な防災製品を市場に提供し、災害対策の基盤を強化します。

結論

32

- 私たち株式会社KDPは、2030年までに温室効果ガスを半減させる「カーボンハーフ」を目標とし、2050年の「カーボンニュートラル」実現に向けた継続的な取り組みを新たに決意します。
- 更に、2025年の大阪関西万博では、持続可能な未来への貢献として、私たちの革新的な耐震カプセルを世界に向けて発信し、災害対策の一環としての社会的価値を提案します。
- これらの取組を通じ、KDPは環境と社会の調和を図る企業として、責任ある行動を果たして参ります。



目標13: 気候変動に具体的な対策を

この目標は、気候変動とその影響に対処するための緊急対策を求めています。

株式会社KDPの「カーボンハーフ」目標（2030年までに温室効果ガスを半減）と

「カーボンニュートラル」目標（2050年までに実現）は、このSDGsの目標と直接的に関連しています。

海洋保護の強化

プラスチック廃棄物を減らし、海洋汚染を防止します。



耐震技術の革新と普及

耐震カプセルやシェルターを開発し、広く配布することで、災害時の安全を確保します。

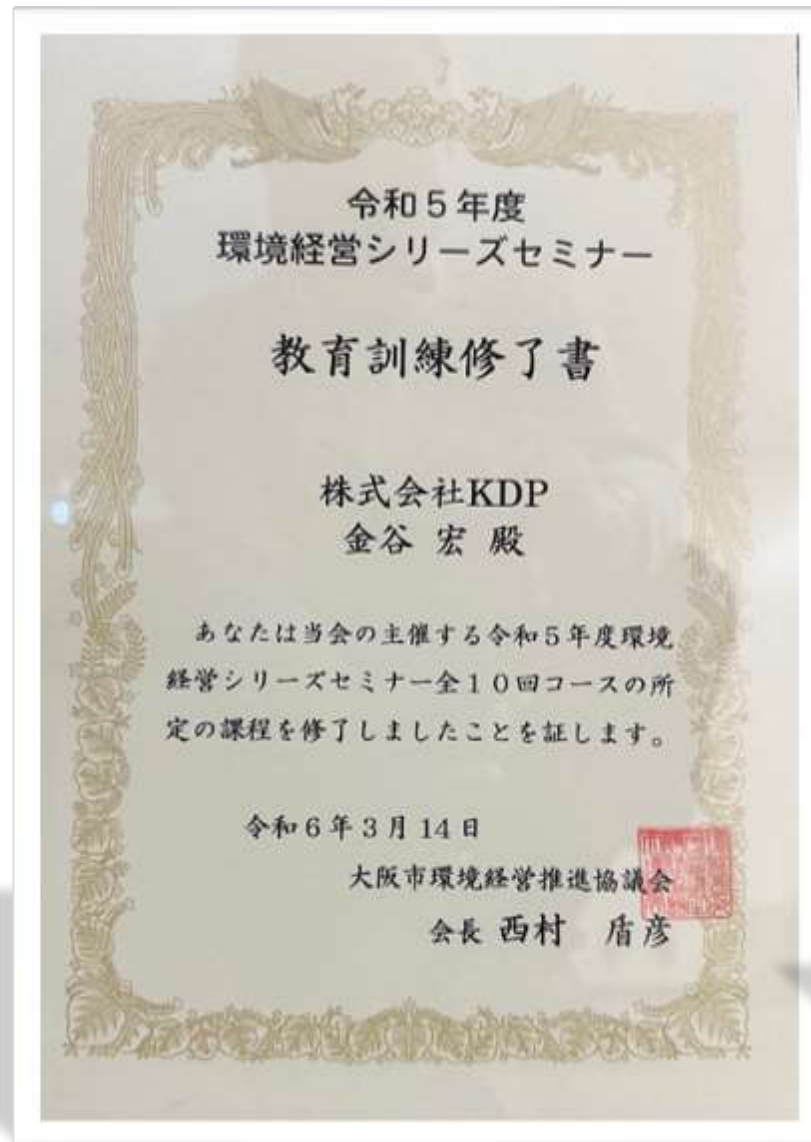


防災製品の研究開発

効果的な防災製品を市場に提供し、災害対策の基盤を強化します。



KDPは、2030年カーボンハーフ、2050年カーボンニュートラルを達成へ向けて邁進します。2025年大阪関西万博での耐震カプセル発信を通じ、地球と社会に優しい未来への責任を果たします。

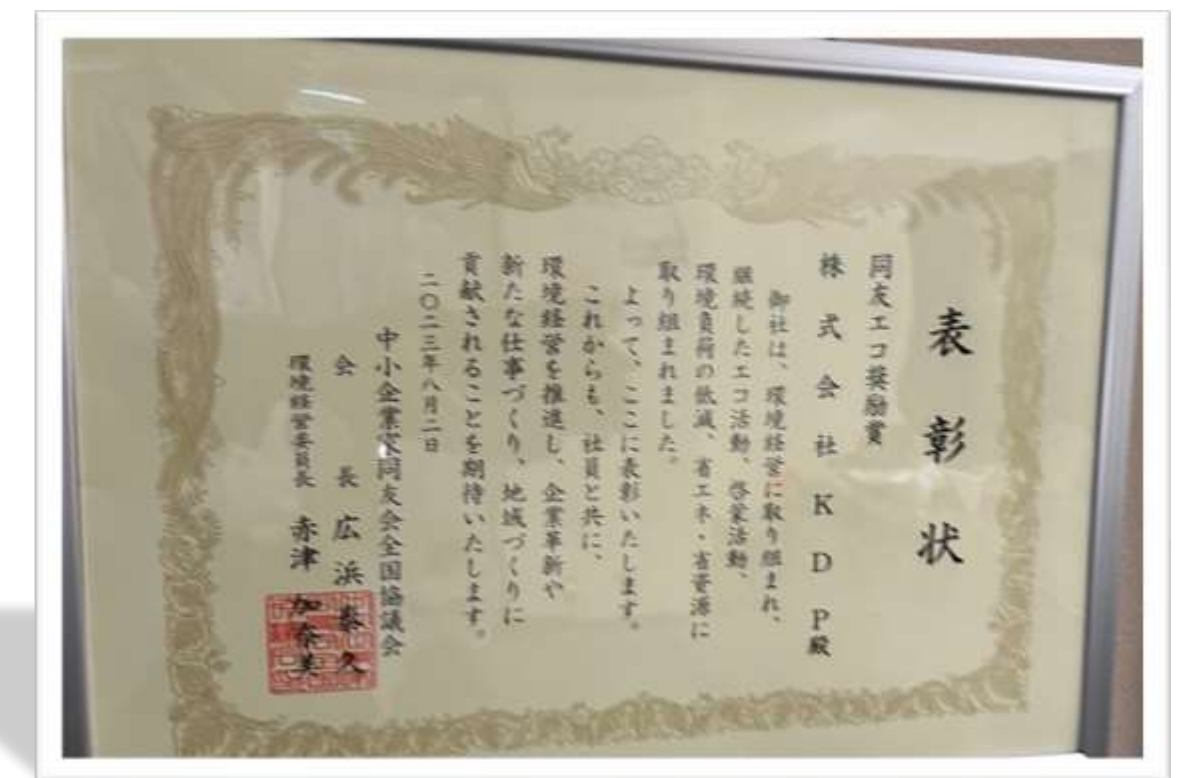


SDGs目標4：質の高い教育をみんなに環境経営シリーズセミナーの修了は、持続可能な開発に必要な知識とスキルを習得したことを示しています。これにより、質の高い教育を通じて専門家を育成し、持続可能な社会を推進する力が強化されます。

令和5年度受賞



SDGs目標13：気候変動に具体的な対策をCO2削減の取り組みは、温室効果ガスの排出削減に直結し、気候変動への具体的な対策となります。これにより、気候変動の影響を軽減し、地球の温暖化防止に貢献します。



株式会社KDPの取り組みは、SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」に最も適しており、持続可能な社会の実現に向けた具体的なアクションを示しています。この目標は、企業がその活動を通じて社会や環境に与える影響を考慮し、持続可能な方法で生産し消費する責任を果たすことを強調しています。

環境関係の各種受賞歴

【大阪府中小企業家同友会】

- 2008年04月: 同友エコフェスティバル 排出権証明書 - 大阪同友会
- 2008年05月: 同友エコフェスティバル 努力賞受賞 - 大阪同友会
- 2009年05月: 同友エコフェスティバル 環境レポート大賞受賞 - 大阪同友会
- 2010年05月: 同友エコフェスティバル プロフェッショナル賞 - 大阪同友会
- 2012年05月: 同友エコフェスティバル プロフェッショナル賞 - 大阪同友会
- 2013年05月: 同友エコフェスティバル プロフェッショナル賞 - 大阪同友会
- 2014年05月: 同友エコフェスティバル エコフェス大賞受賞 - 大阪同友会
- 2017年05月: 同友エコフェスティバル 環境レポート大賞受賞 - 大阪同友会

【大阪市環境局・なにわエコ会議】

- 2004年03月: 二酸化炭素削減コンペ 努力賞受賞
- 2009年03月: 二酸化炭素削減コンペ 努力賞受賞
- 2010年03月: 二酸化炭素削減コンペ 普及啓発賞受賞
- 2011年03月: 二酸化炭素削減コンペ 環境美化貢献賞受賞
- 2011年03月: 大阪市環境局主催 おおさか3Rリーダー賞受賞
- 2012年03月: 二酸化炭素削減コンペ 省エネ大賞受賞
- 2012年11月: 二酸化炭素削減コンペ 省エネ優秀賞受賞
- 2017年03月: 二酸化炭素削減コンペ 感謝状受賞
- 2018年03月: 二酸化炭素削減コンペ 感謝状受賞
- 2018年03月: 二酸化炭素削減コンペ SDGs推進賞受賞
- 2019年03月: 二酸化炭素削減コンペ 感謝状受賞
- 2020年03月: 二酸化炭素削減コンペ 大賞受賞
- 2021年03月: 二酸化炭素削減コンペ 感謝状受賞
- 2022年03月: 二酸化炭素削減コンペ 優良賞受賞
- 2023年03月: 二酸化炭素削減コンペ 大賞受賞

【中小企業家同友会全国協議会】

- 2010年07月: 同友エコ大賞 CO2削減貢献賞受賞
- 2011年07月: 同友エコ大賞 社員と共に賞・受賞
- 2013年10月: 同友エコ大賞 CO2削減貢献賞受賞
- 2014年10月: 同友エコ大賞 省エネ大賞受賞
- 2014年10月: 全国会員と阿蘇にて記念植樹祭り
- 2015年03月: 同友エコ大賞 外部審査委員長賞受賞
- 2016年03月: 同友エコ大賞 同友エコ大賞受賞
- 2018年02月: 同友エコ大賞 同友エコ奨励賞受賞
- 2019年02月: 同友エコ大賞 同友エコ奨励賞受賞
- 2020年07月: 同友エコ大賞 同友エコ奨励賞受賞
- 2021年12月: 同友エコ大賞 同友エコ奨励賞受賞
- 2022年09月: 同友エコ大賞 環境経営委員長賞受賞
- 2023年09月: 同友エコ大賞 同友エコ奨励賞受賞
- 2024年09月: 同友エコ大賞 同友エコ奨励賞受賞

【環境省・環境人材コンソーシアム、EA21、持続性推進機構】

- 2015年02月: 第18回環境コミュニケーション大賞 優良賞
- 2017年02月: 第20回環境コミュニケーション大賞 優良賞
- 2018年03月: 環境人づくり企業大賞2017 奨励賞受賞
- 2019年02月: 第22回環境コミュニケーション大賞 優良賞
- 2019年03月: 環境人づくり企業大賞2018 奨励賞受賞
- 2020年02月: 第23回環境コミュニケーション大賞 優良賞
- 2021年02月: 第24回環境コミュニケーション大賞 優良賞
- 2021年03月: 環境人づくり企業大賞2020 優秀賞受賞

社員総会

- 株式会社KDPでは、年2回の社員総会を開催しており、4月の本決算後に前年度の活動を振り返り、新たな年度の方針を共有し、承認を得る場を設けています。
- 今回で33期目を迎える当社の総会は、全社員が参加する重要なイベントです。どうしても出席できないメンバーは委任状を通じて意思を示していただきます。
- この長年の伝統は、私たちが一丸となって会社を進化させていく上で不可欠です。





社員総会

- 当社では、2007年度から毎年恒例の社員総会を開催しています。年2回開催します。本決算後の4月と、中間決算後の10月に開催します。
- 全社員がこの総会に参加することが求められており、参加が難しい場合は事前に委任状を提出しています。これにより、実質的に全社員の参加を達成しています。
- この総会では、前年度の成果と課題の総括が行われ、次年度に向けた方針やビジョンが共有されます。全体総会の後には、各部門別にも総括と次年度の方針や計画の発表が行われます。



安全祈願 & 初詣

- 毎年、私たち株式会社KDPのメンバーは新年の初日に近隣の住吉神社を訪れ、一年の安全と繁栄を祈願します。
- この行事は、神主によるお祓いを経て、社員一同で参拝し、その後は全員でお弁当を囲みながら新年の抱負を共有します。
- この時間を通じて、私たちは一人ひとりが新年の目標を定め、チームとしての結束を深めます。この伝統は、私たちの企業文化に根ざし、年始の恒例行事として大切に守られています。



未来会議

- 新年の門出に、社員全体が一堂に会し、チーム別に分かれてブレインストーミングを行います。
- KJ法を活用し、各自が理想とする会社の姿をカードに記入。他者の意見を参考にしつつ、「こんな会社になりたい」「こんな会社であれば素晴らしい」といったビジョンを共有し合います。
- 最終的には、アイデアをグループ化してチームごとに発表し、全員で共有する時間を持ちます。





懇親会

- 社員総会の閉会后、社員全員で懇親会やパーティを開催します。この時間は、社員一人ひとりが考案した様々なパフォーマンスを披露する場となり、歌や演芸が繰り広げられます。
- 夜景が美しいアートホテルのフロアを貸し切り、一年間の労苦を共に称え合いながら親睦を深めます。



誕生日

- ・ 懇親会・会場の中心に設けられた壇上で、当月に誕生日を迎える社員たちが一堂に介し、小さなケーキと共に祝いされました。
- ・ 周りの同僚からは温かい拍手と「ハッピーバースデー」の歌声が響き渡り、和やかな雰囲気の中で、皆の幸せな一年を願いました。



防災訓練

- KDP防災訓練の実施について
- 株式会社KDPでは、近隣住民および同ビル内の他社員と協力し、年に2回、港区消防署の指導のもとで防災訓練を行っています。
- 訓練は、館内放送による緊急火災情報のアナウンスから始まり、その指示に従って皆さんが指定された避難場所へ集まります。
- その後、消防署員の指導の下、避難方法や消火器の使用方法など、火災時の基本的な対処法について学びます。

大阪関西万博での出展

- このたび大阪関西万博への正式出展が決定！
- 当ブースでは、「Sphere Secure」プロジェクトの最先端技術を通じ、持続可能な未来への貢献を皆様にご覧いただく予定です。
- 革新的な耐震カプセル「Sphere Secure」は、防災技術としてのみならず、教育、都市開発、国際協力の視点からSDGsの目標達成に貢献する可能性を秘めています。本展示を通じて、災害に強い未来のコミュニティ作りへの理解を深め、世界各国との連携強化に繋げてまいります。
- 私たちは万博の舞台を活用し、未来へのビジョンと決意を、国内外のゲストに向けて発信します。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。



**Osaka
Healthcare
Pavilion**
Nest for Reborn

Sphere Secureの紹介

未来への安全、今ここに体験 Sphere Secure

- 大阪関西万博での出展を発表。
- Sphere Secureの目的：
災害時の生存率向上に貢献。



Osaka
Healthcare
Pavilion
Nest for Reborn



大阪関西万博出展決まる！

結論と感謝の言葉： Fort Rex耐震シェルター

震度 7 相当の荷重にも耐える！

実験で与えた水平荷重は、保有水平耐力計算で考慮する地震動の応答の1.1 倍の1100gal にほぼ相当する
(関東学院大学渡部教授)

・ 主なポイントの要約

- Fort Rex耐震シェルターは、マグニチュード7.6にも耐えうる耐震性、緊急時に必要な機能、持続可能な環境対応設計を備えています。
- 実装プロセスは、地域社会との連携を重視し、国内の様々な施設における導入を目指しています。
- 長期的な展望として、Fort Rexは技術革新を続け、災害後の復興を支援するための基盤となることを目指します。

- Q&Aセッションを通じて受けた貴重なご意見は、プロジェクトの改善に役立てて参ります。

・ 聴衆への感謝の言葉

- 本プレゼンテーションにご参加いただき、また積極的にご意見を交わして下さった皆様に心より感謝申し上げます。
- 皆様の洞察とフィードバックは、Fort Rex耐震シェルターをより良いものにするための重要な一歩です。
- 皆様からのご意見を今後もお待ちしております。
- ご協力いただき、ありがとうございました。今後ともFort Rex耐震シェルターを何卒よろしく願いたします。



a) 想定する RC 造架構形状

(b) No.1 (既存部)



(c) No.2
(ポリウレタ樹脂吹付)

(d) No.3
(アラミド繊維 1 層巻ポリウレタ)

参考文献

ポリウレタによる耐震の検証 (東京都中小企業振興公社による助成金)



コンクリート剥落防止RC梁柱補強施工法(ポリウレタ樹脂吹付試験) 関東学院大学:2018年10月

- 参考文献
- データソース、
- 研究論文、
- その他の参考資料



テスト前



テスト後

上段のコンクリートが、左右に $1/25$ 横に動く加力を与える
振り幅 88 mm
累積総落下物 $4,410\text{ g}$

試験後(上部と下部)



上段のコンクリートが、左右に $1/25$ 横に動く加力を与える
振り幅 88 mm
累積総落下物 なし 0 g

試験後(上部と下部)



KDPの社歌

【VERSE 1】

大きな夢を描くために、私たちは今日も歩く
多様性の中で輝き、それぞれの才能を解き放つ
教育と成長の機会に、心から感謝を込めて
共に歩み、共に創る、そんな未来への一步を "Together as One"

【CHORUS】

共に歩む、共に創る、明日への夢を共に紡ごう
エコフレンドリーな明日のため、革新を追求し続ける
透明性と倫理を守り、社会への貢献心掛けて
KDPの旗のもと、"Leading the Way" 持続可能な未来を目指そう

【VERSE 2】

持続可能な地球のために、私たちは行動を起こす
エネルギーは賢く使い、未来世代の夢を守る
健康で安全な職場で、チャレンジの精神を育む
地域社会と共に歩み、調和の中で成長を遂げる "United We Stand"

【CHORUS】

共に歩む、共に創る、明日への夢を共に紡ごう
エコフレンドリーな明日のため、革新を追求し続ける
透明性と倫理を守り、社会への貢献心掛けて
KDPの旗のもと、"Leading the Way" 持続可能な未来を目指そう

【BRIDGE】

優秀な人材こそが鍵、共に、創る、未来へ
環境を思いやりながら、社会に価値を提供
透明性、倫理、貢献、これらが私たちの誓い
共に紡ぐ明日への夢、"Dreams into Reality" 限りない可能性を信じて

【CHORUS】

共に歩む、共に創る、明日への夢を共に紡ごう
エコフレンドリーな明日のため、革新を追求し続ける
透明性と倫理を守り、社会への貢献心掛けて
KDPの旗のもと、"Leading the Way" 持続可能な未来を目指そう

各セクションの最後に加えた英語フレーズが、KDPの社歌に国際的な魅力とカッコよさを加え、社員の皆さんを一層鼓舞することでしょう。



編集後記

株式会社KDPは、2023年度（第32期）においても持続可能な成長を目指し、経済、社会、環境の三つの柱を基本方針として掲げました。特に、「共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ」という理念の下、社員一人ひとりが自信を持って挑戦し、成長できる職場環境の整備に努めて参りました。

当期の主要な達成事項としては、新規顧客の獲得と既存顧客との取引強化が挙げられます。これにより、売上高及び利益率の向上が見られ、企業全体の競争力強化に繋がりました。また、エコフレンドリーなビジネスプラクティスの実施や、教育および環境に配慮した企業活動にも注力しました。

一方で、未来への展望として、社内のデジタル化の進化や、国際的な協力関係の拡大による新しい事業機会の創出にも焦点を当てています。持続可能な企業成長を支えるために、透明性と倫理的な行動を基本原則とし、より良い未来を共に創造するためのイノベーションを追求する姿勢を強化して参ります。

株式会社KDPは、経済的成功だけでなく、社会的責任の果たし方にも依存する企業発展を目指し、社会的な課題に積極的に取り組むことで、全てのステークホルダーにとって価値ある企業であり続けることを約束します。皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

ありがとうございました。

皆様、本日はKDPの環境経営に関するプレゼンテーションにお時間を割いていただき、誠にありがとうございました。

なにわエコ会議での二酸化炭素削減コンペにおける大賞受賞は、私たちの環境に対する取り組みが社会的に評価されたことを意味し、これを励みにさらなる努力を重ねていく所存です。

皆様の貴重なフィードバックと継続的なご支援が私たちの未来への歩みを力強くしています。今後とも株式会社KDPの取り組みにご期待ください。心より感謝申し上げます。